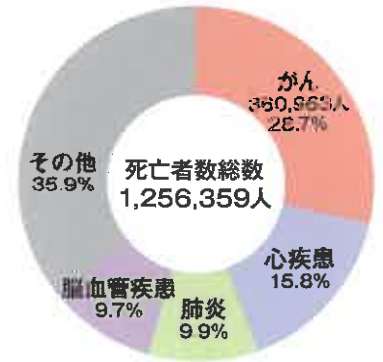


日本人の2人に1人が“がん”になり、 3人に1人が“がん”で亡くなっている。

厚生労働省によると、平成24年に亡くなった日本人の死亡者を死因別に見ると第一位はがんで、36万人。全死亡者の約3割、実に日本人の3人に1人が、がんで亡くなっていることとなります。さらに、右の図をご覧くださいますと、死因の第三位に今までの脳血管疾患を抜いて肺炎が上がってきています。この中には、がん治療による免疫力の低下から肺炎を引き起こして亡くなっている方が多数含まれていると考えられます。今や、あなただけでなく、大切なご家族や友人にも、いつか直面する病が“がん”だと言えるでしょう。



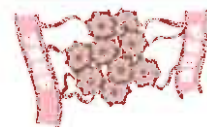
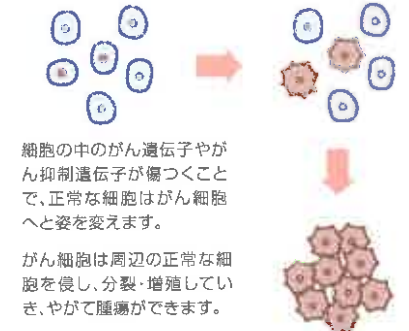
主な死因別死亡数の割合 (平成24年度)
「平成24年人口動態統計」
(厚生労働省)

なぜ“がん細胞”は出来るのか？

多くの場合“がん細胞”は、下記のプロセスで発生し、増殖します。



- 1 紫外線、食事の偏り、タバコ、ストレスなどの生活習慣や加齢などによる遺伝子変異
- 2 がん遺伝子が傷つく：細胞増殖のアクセルが踏まれます (RAS 遺伝子の活性化など)
- 3 がん抑制遺伝子が傷つく：細胞増殖のブレーキが壊れます (p53 遺伝子の不活性化など)
- 4 細胞周期を無視した際限ない細胞増殖が始まり、1~2mm 程度の腫瘍ができます
- 5 腫瘍に栄養を補給するため、「血管新生」が始まります (VEGF 遺伝子の活性化など)
- 6 十分な栄養を得た腫瘍が急成長します (がん化)
- 7 腫瘍から遊離した「がん細胞」は、血管を通して、別の臓器へ転移します



がん細胞は栄養を補給し、さらに増殖するために近くの毛細血管から新しい血管をつくり出します。



分裂・増殖を繰り返し5年~20年の年月をかけて「がん化」します。



画像診断では追跡できない微細ながん細胞により転移・再発は起こります。

多臓器への転移が進行し、個体を死に至らしめます

生活習慣や環境などの要因により、正常な細胞の遺伝子が複数傷つくことで“がん細胞”は生まれます。

治療から予防の時代へ・・・ それを可能にするのがCanTectです。

近年、PETなどの検査機器の進歩により、5mm程度のがんも診断できるようになって来ました。しかしながら、5mmのがんといいますとすでに、「一人前のがん」になっています。細胞数にして10億個を超えています。この大きさになるまで、5年から20年ほどかかると言われています。もし、この間のがん発症の危険性を察知できれば、がんとの過酷な闘病を回避できるかもしれません。がんになれば、仕事や日常生活に支障をきたすだけでなく、一般的ながん治療(手術・抗がん剤・放射線治療)で身体的に大きな負担を強いられます。また、がんを発症すれば、治療後も再発の不安に常に脅かされます。

CanTectは、まだ一人前のがんに成長する以前のごく小さながん細胞の存在リスクを評価し、がんを予防する機会を与えてくれます。

がんの超早期リスク評価を目指すCanTectは、後天的な要因(生活習慣、生活環境、ストレス、加齢など)により増大する“がんリスク”、“微細ながん細胞の存在リスク”を評価するプログラムです。後天的な要因が原因であれば、生活習慣、環境の改善、サプリメント、免疫療法などの予防的アクションで、がんの発症を未然に防げる可能性も十分にあります。



予防管理

がんは、生活習慣病であって、予防することが可能です。是非、CanTectでご自身のがんリスクを把握してリスクに応じた予防のためのアクションをとりましょう。

治療効果確認

CanTectは、血液中の遺伝子の状態から見た治療効果の確認にも利用することが出来ます。本書10ページ参照。

再発予防管理

CanTectは、がんが寛解した後の再発予防管理にも強みを発揮いたします。経過観察の評価の一助となるだけでなく、再発予防アクションの効果確認にも利用できます。

がんになってから苦しい治療をするのではなく
がんになる前に「体にやさしい予防」により
がんの発症を未然に防ぐ努力をしましょう。